

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 1 3	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and type 2 diabetes among older adults: the Cardiovascular Health Study. 老年者における飲酒と 2 型糖尿病との関連 : the Cardiovascular Health 研究	
執筆者	
Djoussé L, Biggs ML, Mukamal KJ, Siscovick DS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Obesity (Silver Spring). 2007 Jul;15(7):1758-65.	
キーワード	
アルコール、疫学、糖尿病	
要 旨	
<p>目的 :</p> <p>老年男女において、全体またはアルコール飲料の種類ごとの飲酒量が 2 型糖尿病の発症に関連しているかについて検討する。</p> <p>方法 :</p> <p>Cardiovascular Health 研究の対象者のうち糖尿病の既往のない 4655 人を前向きに追跡した。飲酒量はベースライン時と追跡期間中に調査された。糖尿病発症の診断は空腹時血糖及び/または血糖降下剤の使用で判定された。アルコールカテゴリーに対する糖尿病発症の調整相対危険度は Cox ハザードモデルにて算出した。</p> <p>結果 :</p> <p>平均追跡期間 6.3 年の間に 234 件の糖尿病新規発症が確認された。飲酒したことがない人に比べて、男性において年齢、BMI、教育レベル、喫煙を調整したハザード比は以前飲酒していた人で 0.7(95%CI:0.3-1.4)、週一回飲酒で 0.5(95%CI:0.3-0.9)、週 1-6 回飲酒で 0.6(95%CI:0.4-1.1)、週 7 回以上飲酒で 0.8(95%CI:0.4-1.3)であった。同様に女性では、1.2(95%CI:0.6-2.3)、0.7(95%CI:0.4-1.1)、0.6(95%CI:0.3-1.1)、0.4(95%CI:0.2-1.0)であった。またいずれの種類のアアルコール飲料を飲んでいても糖尿病のリスクは下がっていた。追跡期間中の調査時に申告されたアルコール消費量で同様の解析を単純にもしくは重み付けをして行っても結果は同じであった。</p> <p>結論 :</p> <p>どのようなアルコール飲料を飲んでいても、少量から中等量の飲酒は老年者において糖尿病の発症リスクを下げる効果があった。</p>	